

B型利用者が介護職員に 知的障害者に初任者研修

4/5

静岡市の社会福祉法人明光会（寺田亮一会長、寺田千尋理事）の就労継続支援B型事業所の利用者だった布留川昭洋さん（52）は、2017年に同会が行う介護職員初任者研修を修了し、入所施設の介護職員として働いている。研修をきっかけに布留川さんの人生は一変した。同市内で障害関係19事業所を運営する明光会の支援のためものだった。（井口拓治）

明光会（静岡市）

前の職場で嫌な目に遭い、人と話すのも難しい状態でB型事業所を利用するようになった布留川さん。一般企業からの請負作業や法人内の清掃作業を行う中で徐々に状態が良くなり、その後、就労継続支援事業所に行き、

た距離が15分未満の場合、介護現場でも「います」「ストップウォッチ」「歩行できる広さ（3〜5平方メートル）」があればどこでも実施可能です。

今回紹介した評価法はリハビリの専門病院でもよく行われていま



水分補給介助をする布留川さん

研修を受講した。研修は、ふりがなが付いた外国人向けテキストや、イラストを使った補助教材などを使い、知的障害者でも分かりやすいように工夫されており「講師のサポートが大変だったが、今は利

ポートで資格が取れた」と布留川さん。資格取得後は、就労移行支援事業所や相談支援事業所のサポートを受けつつ、入所施設で介護業務を経験。19年に正式な介護職員になり、今はグループホームで生活しながら、正午から午後9時までの遅番を担当している。仕事の内容は、服薬支援など一部を除くすべての業務を担当する。月額賃金は、B型事業所の10倍以上の17〜18万円に増え、映画や買い物を楽しむゆとりもできたという。

「仕事は覚えるまで大変だったが、今は利用者の個性を理解して仕事をしている。『明日は来るの』などみんなが声を掛けてくれるのでうれしい。B型事業所の時よりずっと楽しい」と話す。

人生を一変させた研修は、介護現場への就労を希望する障害者を支援するために、静岡県が02年度から県社会就労センター協議会に委託し、県内5地区（定員11各地区10人程

度）で行っている。明光会は16年度から中部地区を担当しており、この7年間で64人の資格取得を支援してきた。このうち14人は、明光会の就労継続支援A・B型事業所や就労移行支援事業所の利用者で、3人が他法人の介護施設や病院に就労し、2人が法人内の施設で介護職員として働いている。

山形県

余ったマスク、介護施設へ

収集箱設置し県民から募る

山形県は12日、家庭で余っているマスクを回収して介護施設などに配布する「福祉マスクドライブ」を始めた。県庁や総合支庁など8カ所に専用の収集ボックスを設置し、5月末まで受け付ける。新型コロナウイルス感染症対策のマスク着用をめぐり、

山形県は、3月13日から個人の判断になった一方、介護施設や医療機関では引き続き着用が推奨されている。新型コロナウイルスの感染症に法上の位置付けが5月に移行する5月8日以降、脱マスクがさらに広がることも見込まれ、家庭で使わなくな

ったマスクを有効活用しようとして、県民からマスクの寄贈を募ることにした。収集するマスクは箱入りで、未開封の不織布マスク。集まったマスクは6月以降に必要とする介護施設などに配布する予定だ。（市川傑）

いことを学生に伝えた。能力の強化に力を入